

## はじめに

2020年に始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の騒動。あなたはどんな影響を受けましたか？ 突然、出社できなくなったり、通勤しなくてよくなったり、学校が休校になったり。

日常がガラリと変わり、本当にいろいろありました。でも誰かのせいでもなく、もちろんあなたのせいでもない。でもコロナのどこかで何か理不尽だと思われることはなかったでしょうか？ 「仕方ない」と言っただけの多くのことを諦めたことはなかったでしょうか？

ワタシも同じです。はじめにワタシの身に起こったのが趣味のマラソンへの影響。結果的に2020年に行われなかった東京オリンピック。その記念すべき五輪イヤーに行

われる東京マラソンへ出場が確定していたのです。年が明けて練習も熱を帯び、2月の最終調整段階で起こった「ダイヤモンド・プリンセス」号の新型コロナウイルス感染症の騒動。そこから一気にフェーズが変わりました。

「大勢の人が集まるのは極めて危険」という風潮が日に日に高まります。常識と非常識に分断され、少数派の意見は、多数派の世間という空気に押しきられ、肯定的な意見すら届かなくなりました。

そして大会2週間前、一般ランナーの参加中止が決定。心待ちにしていた3万人のランナーは涙をのむことになりました。その一人がワタシでした。旅費はキャンセルできたものの、1万円以上支払った参加費は返ってきません。仕方ないと思っただけのもの、お金というより支援してくれた方々へ申し訳なく思っただけです。

というのも実はこの東京マラソン2020。出ることになったのは一般抽選に通ったからではなく、チャリティー枠による自腹10万円を払ったからでもなく、とある方法で

出られるようになったからです。

とあるオンラインサロンのメンバーだったワタシをサロンメンバーが中心になって支援してくれたのです。数にして60名。誰一人ランナーなんていません。ましてやワタシのような100キロ完走や公式ペースランナー経験者などいるわけもなく、ただのヘンタイさん（笑）。

そんなメンバーへワタシが東京マラソンに出たいと宣言したところ、たった1カ月でスルスルと支援してくれる人が集まりました。

おかげで出場権を獲得できることになり、支援者への感謝を伝える場としてこの東京マラソン2020を完走することが何よりもプレゼント。

完走の喜びをともに分かち合い、東京の地で支援者とともに盛り上がる。そのような青写真を思い描いていました。

しかしその青写真は実現しませんでした。あれから3年が経ち、ワタシもそのオン

ラインサロンを離れ、連絡が途絶えた状態になってしまいました。そしていよいよ2023年3月。東京マラソン2023へ出場。本書は2019年から2023年の4年にもわたる長きストーリーをお伝えするいわば「東京マラソン物語」です。新型コロナウイルス感染症が蔓延していた時代はこれまで常識だった「自力」ではなく、「他力」といういわばチーム戦が大事だと教えてくれました。「早く行きたければ一人で行け、遠くへ行きたければみんなで行け」まさにそれを体現したストーリーをお読みください。